



NPO法人
ヒマラヤ保全協会

IHC-JAPAN: The Institute for
Himalayan Conservation Japan

Shangri-la

シャングリラ



現地活動の原点シーカ村
バランジャ村 出張報告



100円でヒマラヤに1本の を植えよう!

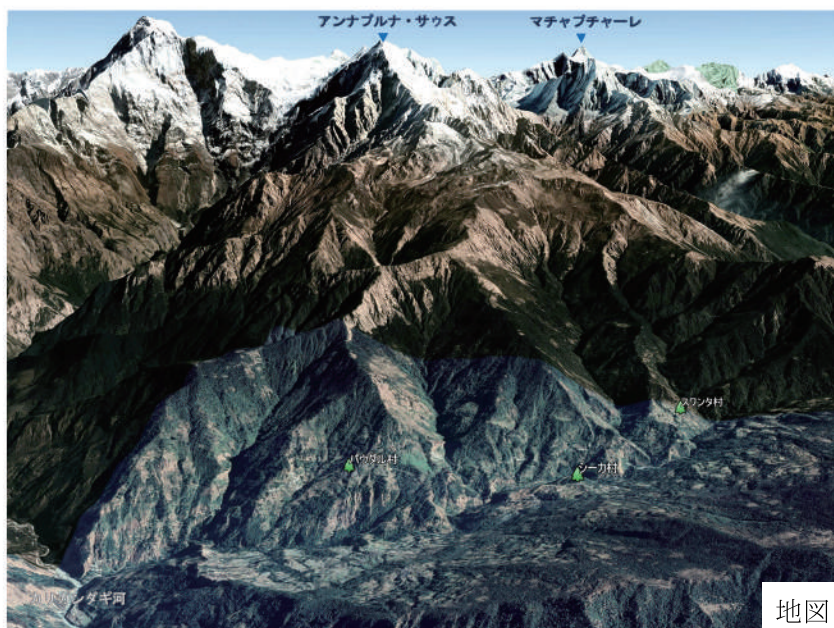
One coin One tree on Himalayan, tomorrow will be in your hands.

現地報告

会長
相馬 拓也

IHC現地活動の 原点 シーカ谷 を訪問してきました！

IHCの現地活動は、1970年代にシーカ谷での開発支援により始められました。今回は、こうしたIHCの地域支援活動の原点ともいえるべきスワンタ村、パウダル村、シーカ村の3村（地図）を、2019年11月に訪問してきました。



1. パウダル村のチーズ工房

パウダル村では2000年代初めころに、チーズ工房を村人とともに設立しました（写真Ⅰ～Ⅳ）。その後、チーズ工房も独自に外部からの支援や援助を受入れ、2019年現在も元気に活動しています。チーズ工房は毎朝7：00～9：00頃に、しぼりたてのミルクを村人が持ち寄って買い取っていま

す。買い取り価格は、生乳に含まれる乳脂肪分に応じて支払います。これにより、村内の乳牛飼育舎にも、現金収入が発生しています。現在は、7頭の乳牛からとれた生乳で、チーズを作っています。





V



VI

チーズ工房の収益は、ほぼすべてがパウダル村にある唯一の学校に寄付されます。同村の学校は所属する教員の給与や設備などを自己資金でまかなうことが難しく、チーズ工房は貴重な収入源でもあるのです。見学からは、よりたくさんの生乳を確保することとされています。今後は、乳用牛の提供や学校児童とのチーズ作りによるブランド化など、IHCとして支援を提供したいと考えています。

2. スワンタ村のロープライン設置

スワンタ村は1970年代に、川喜田二郎先生が初めてロープラインを設営した場所であり、本会活動のいわば原点でもある土地です。現在はコブラ・ダンダやアンナプルナ・ベースキャンプなどに通ずる経路地点として、シーカ谷のなかでもおおくのトレkkerや外国人客でにぎわっています。ゲストハウスも5軒ほどがあり、小さな村にもかかわらず、活気のある場所です。

この村では2本のロープラインが設置されています（写真V）。このうちの1本がいまでも薪や飼料木の運搬に使用されています。しっかりと固定されたロープラインの全長はおよそ480mに及び、東側の山の斜面まで伸びています。現在の課題は、ワイヤーそのものよりも荷物の運搬に使う滑車が経年劣化しているとのことでした（写真VI）。次回の訪問時には、村の代表者にIHCから滑車数台を贈呈したいと考えています。

3. シーカ村の土砂崩れ被災地への植林

シーカ村は1990年代に、集中的に植林活動を実施した場所です。当時は複数の土砂災害や地滑りした土地がむき出しになっていました。こうした間隙地を中心に植林を実施し、いまでは広大な林が広がる土地となりました（写真VII）。現在は、植林をするべき間隙地もほとんどなくなり、緑化事業としての成果はおおきな成功を収めた村でもあります。

現在は、カリガンダギ河からトレッキングに訪れる人々の中継地であり、多数の往来があります。今後はゲストハウスなどに、当会活動のパンフレットなどを置かせてもらい、IHCの40年間以上におよぶ活動を周知したいと思います。

以上のように、新事業から10年以上、中には40年以上の時を経て、IHC地域支援事業の成果や効



VII

果を多々見る事ができました。今後もフォローアップを通じて、シーカ谷との交流を続けていきたいと思っています。

現 地 報 告

理事
布施達治

バランジャ村出張報告

この年末年始バランジャ村を訪問し、主としてキウイ苗の植え付け作業に従事してきました。

手を挙げてくれた10軒以上の農家を訪問し、現地スタッフのルケシュさんと技術指導をしながらの作業となりました。どの農家も畑の整地等の事前準備にしっかりと取り組んでおり、作業の際熱心に質問する姿勢が見られ、今後の取り組みに大いに期待できる印象を持ちました。



学校でも先生方がこの事業の意義を理解し、キウイ苗の植え付けに積極的に取り組んでくれました。生活林に関しては、バランジャ村周辺は、これまでの植林支援活動によって森林が十分に復活していることを確認しました。



苗畑も、村の苗畑管理委員会により運営され、支援予算にあった施業内容が決められています。薪の伐採では村人が協力し合い、持続可能な形でなされている様子を現地で確認できました。したがって今後は、植林についての資金を含めて村人が自分たちのアイディアに基づいて委員会を運営していく段階に入ったと考えました。ただし、村人の現金収入確保の方策として、



有志がキウイを育てはじめたばかりなので、この支援は当面続けないといけないう。しかし、いずれは、生活林づくりと結びついた果樹栽培ができるようになれば、良い形でのハンドオーバーができると思いました。



今回、バランジャ村滞在中に多くのお宅を訪問してわかったのですが、周囲の広い領域にわたる森林はIHCの支援によって復活したものであることが広く認識されていること、IHCの活動に対して村人皆が感謝していることをこの報告に添えたいと思います。また、現地を訪問し、やはりネパールの山村での生活実態とIHC-Nepalの活動を自分の眼で見ることの大切さを実感しました。2015年のネパール地震以来行われていないネパール・ヒマラヤ山岳エコロジースクールを再開するべきではとも考えました。



国内活動

理事
佐久間雅俊

2019年9月28日、29日 グローバルフェスタJAPAN 2019



2019年9月28日（土）、29日（日）にお台場にてグローバルフェスタJAPAN2019が開催され、今年も出展しました。ブースの内容は例年通り私たちのネパールでの活動の説明と、アミナコレクション様のご協力によるアジア雑貨の販売です。天気にも恵まれ、たくさんの方が訪れてくださいました。

国際協力に興味があるけれど、どこで情報を得たらいいか迷っていた方や、そしてすでにどこかで関わっていてより深くネパールのことを知りたいと考えておられる方など、積極的にブースの中に入ってきてくださって、熱心に説明を聞いてくださいました。

ネット上で募集をしたボランティアの方々にも助けていただきました。中でもFさんは2日ともフルタイムでの参加と私たちが恐縮するほどで、ブースの飾りつけから活動発表会の機器運搬、商品販売まで大活躍でした。ありがとうございます！

出展ブースとは別の共同テントでの活動報告会では、現在私たちが行おうとしているヒマラヤ山村でのキウイ栽培について、ご参加者の方から熱い助言をいただきました。それは主に販路開拓の難しさについてのことでした。数々のご意見を聞いて、その大変さを実感し私たちも身の引き締まる思いです。



また、使い古したネパール手すき紙のカレンダーを材料として、その絵柄を生かした封筒づくり体験を目当てにブースを訪れてくれた常連さんがいらして下さいました！残念ながら、今年は企画していなかったのですが、このような楽しみの催しも人々をつなぐ一つの方法であると実感しました。来年以降、また何かこのような企画を考えたいと思います。皆さん、何かいい企画案があったらどうぞお聞かせ下さい！



第4回 ネパール語を学ぶ・・・行きたい場所にたどり着く編・・・

ナマステ！この年末年始は20年ぶりのネパールでした。土地勘も消え、地図（ナクサ）を片手に「この道はどこ？（ヨ バト カハン ツァ？）」「タメル交差点はどこ？（タメル チョーク カハン ツァ？）」と尋ねる羽目になりました。道端のネパール人に「ハーイ ダイ！（はい お兄さん！）」と呼びかけ「タパインライ ○ ○ホテル タハ ツァ？



「カティ ラグツァ？（どれくらいかかる？）」だけだとお金（パイサ）、時間（サマエ）のどちらにもとれるので、「パイサ（お金）」「サマエ（時間）」をカティの後につけた方がいいと思います。値段はまず吹っ掛けられるので「マハンゴ ツァ！（高いです）」「安くして！（サスト ガルヌス!）」で交渉して、乗り込んだらドライバーとネパール語の練習です。

「タパインコ ナーム ケ ホ？（あなたの名前は何かですか？）」「タパイン カハン バスマフンツァ？（あなたはどこに住んでいますか？）」「カヒレ ○○ アイブグツァ？（いつ○○に着くんだ？）」。

ネパール語（ネパリ バサ）で聞くと大概のネパール人は嬉しそうに答えてくれます。大丈夫です、理解できなかったら英語（アングレジ バサ）にチェンジすればいいのです。



また「アイブグツァ（到着する）」はよく耳にする動詞で、アイブグツァが現在形、アイブギョが過去形です。目的地に着いた時は「アイブギョー！（着いた!）」と皆言います。さて練習です。訳して下さい。

（タクシーの運転手に）

私「ハーイ ダイ！ ナマステ」

ネ「ナマステ！」

私「ヤハン カハン ツァ？」

ネ「タメル チョーク ホ」

私「エタ バタ Patan Gateサンマ

カティ パイサ ラグツァ？」

ネ「500」

私「フンダイナ マハンゴ ツァ サスト

ガルヌス」

ネ「400」

私「フンツァ ザオン！」

（文責：布施達治）



※フンツァはOK、フンダイナは駄目、ザオンはLet's go.
ロクヌスはロクヌ止まるの命令形で止まってください。

事

務

局

だより

2020年度の総会の案内

2020年6月6日（土）

15:00～

早稲田大学 相馬研究室（予定）

■プログラム

14:30～ 開場・受付

15:00～ 会員総会 開会

議長選出 定足数確認 書記・議事録署名人選出

参加者自己紹介

第1号議案 2019年度事業報告

第2号議案 2019年度決算報告

監査報告

第3号議案 2020年度事業計画

第4号議案 2020年度予算

会員総会 閉会



寄付で支援する

100円で1本の木がヒマラヤに植えられます!!

1口 3,000円から何口でも結構です。

下記の振込み先にご送金ください。

■ みずほ銀行新宿南口支店

普通2005209

NPO法人 ヒマラヤ保全協会

マンスリーサポーターになる

毎月 1,000 円 からマンスリーサポーターになることができます。マンスリーサポーターの皆様には、「活動報告書&計画書」年1回）をお送りします。

■ 郵便振替

00100-0-709154

※銀行振込みをご利用いただいた場合は、ご氏名（ふりがな）とご住所を、e-mailにてご連絡ください。

会員になる

年会費： 個人会員 5,000円 ・ 団体会員 30,000円

会員の皆様には、現地の活動が盛りだくさんの

会報『シャングリラ(Shangri-la)』をおとどけします。

100円で1本の木をヒマラヤに植えよう！ ご支援お待ちしております！

シャングリラ第106号 2020年2月1日発行 編集・発行 NPO法人 ヒマラヤ保全協会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田キャンパス 9号館 7階 714号室

TEL: 080-3570-8458

e-mail: ihcjpn@ybb.ne.jp

ホームページ: <http://www.ihc-japan.org>